

特集 ヒロシマピースツアー報告……P4～P5

機関紙「よどがわ」[300号]に寄せた  
元機関紙担当理事（機関紙委員長）藤元百代

1983年から約5年間、毎月発行を  
目指して、機関紙委員全員で取り組んで  
いた。当時委員は全員組合員。「紙面の中  
に、よりたくさんの組合員さんが登場でき  
るように企画を練つて、足で書こう」と  
いうように企画を練つて、足で書こうなど

といなながら、たくさんの方々に取材に出かけて  
奮闘しました。一番の想い出の企画記事は  
「班訪問」です。自薦・他薦の元気な班を訪  
問して、たくさん知恵と元気の輪をいただ  
きました。虹の輪のように「よどがわ」が  
いっぱい地域に広がっていくよう、わい  
わい・わくわくの日々でした。300号とい  
いわず、500号を目指したいのですね。



古い記事を見ると、機関紙が『よどがわ』生  
協の歴史を反映して、紙面を作っている」と  
が改めてわかります。創設間もないころは、組  
合員が自ら生協を大きく育てていこうとする  
熱気が伝わってきます。  
最近では商品や産地の情報、組合員活動の  
様子を伝えています。紙も再生紙を使ってお  
り、印刷の技術の変遷もよくわかります。1色  
刷りからフルカラーになり、商品や活動の写  
真がより見やすくなりました。また手書きか  
らワープロ原稿、そしてパソコンを使った紙面  
作りに移り変わつてきました。  
でも、変わらないのは、生協の事業内容や、

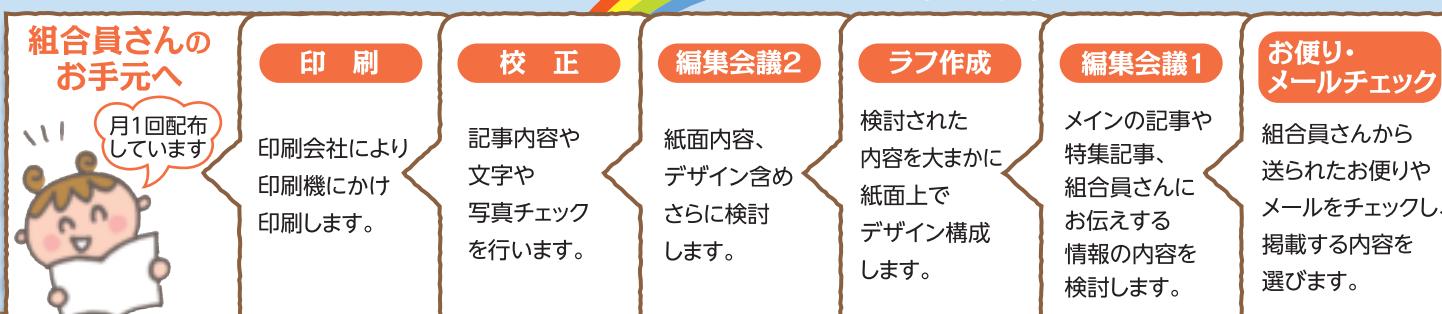
組合員活動の様子を広く伝えていくという  
報活動の役割です。たくさんの愛読者からの  
投稿や、さまざまな場での意見・要望が、  
よい紙面作りのエネルギーになっています。こ  
れからも感謝の気持ちを忘れず、組合員どう  
ぞ、生協のよさを共感しあえる紙面をめざし  
ていきます。ホームページもあわせて、今  
後とも機関紙広報活動にご協力ください  
いますよう、お願ひいたします。

機関紙よどがわの第1号は、「よどがわ」創立1977年2月の半年前、創立準備をして  
いる1976年9月に創刊し、今回300号を迎えることになりました。たくさんの組合員さん、  
産地、お取引先業者のみなさん、関係者のみなさんの多大なご協力の賜物です。

## これからも組合員さんとよどがわ生協 つなぐかけ橋に



### 機関紙よどがわが組合員さんに届けられるまで



左記QRコードで、eフレンズやよどがわ生協からのご案内などの情報へ簡単にアクセスできます。

資料請求もできるよ!

